広報 ごじょうめ

発行所　秋田県五城目町役場　編集　総務課　電話（018876）代2100番
印刷所　湖東印刷所　電話（018876）2430番　一部5円
郵便番号　018－17　毎月1日・15日発行

＜ミニ知識＞

肥料大巾値上げ、平均32％

石油不足、電力の供給カット、原料値上り、減産によるコスト高などの理由から、化学肥料は49年1月からいっせいに値上りが決まった。アップ率は次の通りである。⊙石灰窒素26.1％、⊙過石43.8％、⊙ようりん37.1％、⊙重焼りん41.4％、⊙塩加22.5％、⊙普通化成36.3％、⊙高度化成31.6％

写真は消防署提供

白い恐怖におののく

豪雪町を埋める

昨年の師走から降り出した雪は引きも切らず降り続け、野山も里も白一色に埋めてしまった。とりわけ、1月26日からの豪雪で、その数字は本町で2メートルを越し、過去9年間の平均48.75センチメートルを大巾に上廻った。又、明治23年に開設された秋田気象観測所では、大正6年2月11日の最高97センチメートルを20センチ上回る開所以来の記録となっている。この豪雪により秋田県内における通勤通学をはじめ長距離輸送の交通機関はマヒ状態に陥ったため日常必需物品に大きな混乱をまねき、昨年11月以来の石油パニック（恐慌）と共に、暗く重い圧力となって県民の生活をおびやかしている。

除雪に三千人の動員

本町ではこのような事態に対処する為に、去る1月16日、町長を本部長とする豪雪対策本部を設置し、同月27日から白い恐怖を取り除く作戦を展開した。2月7日まで動員した機動力（すべて延数）は、ダンプ車247台、タイヤローダ20台、ショベルドーザ43台、ブルドーザ27台、計337台となっており、役場職員を中心とする動員数は750名を数えた。一般町民の協力者をも合せると、約3,000人が雪との戦いに参加したものとみている。

豪雪非常事態防災宣言の町

なお、2月5日「豪雪非常事態防災宣言の町」として、町民ひとしくこの自然の脅威に対処する為、隣り近所の連絡を密に保ちながらお互いの安全を図ろうとする呼びかけをしている。

しかしながら不幸にして家屋や農業施設など倒壊したもの15件（2月10日現在）面積にして2,213平方メートルに及び、その損害額は、2千3百26万2千円となっている。

立春過ぎのゆるむ厳寒の願いも空しく、氷が強くなり、吹雪の日が続いているが、緊急事態が発生する前に、ためらう事なく、対策本部（建設課電話2100番、又は3711番）にご連絡ください。そして雪の災害からあなたの家族と郷土五城目町を守ってください。

＜広報サロン＞

部落公民館を管理してみて

上樋口　猿田　俊継

地域社会における施設の殿堂として、公民館の果す役割は今更申しあげるまでもないが、まことに大きいものがある。

私は部落公民館を管理している者の一人だが、公民館の利用の仕方も年々バラエティに富んで来ている。四十七年に新築するまでは非常に利用の仕方も乱暴で、部落会でもその取り扱い方に苦慮していたが、新築後は、自分の家のように大事に取り扱ってくれ、公共物の利用の仕方に理解を示し、協力してくれるようになったのは心強い限りである。

公民館は言うまでもなく、地域住民の話し合いの場として貴重な存在である。部落会をはじめ、青年、婦人、若妻会、老人クラブ子ども育成会等の研修と憩の場であり、そして役場、農協等と接渉の場としてその利用価値は広く深いものがある。ここで話し合われた事、学んだ事は、日常生活の食卓の上から、部落の将来を左右する重要な事まで生れているのであるいわば部落の国会議事室みたいなもので、管理する者にとっても重い責任を感ずるゆえんである。

開くところによると、本町に新らしい公民館が来年度から建設されるそうだが、誠に結構だと思う現在の公民館も利用の仕方によっては価値もあるだろうが、あのままでは、利用する町民側かまらち言わせてもらう、利用することはしだいに覆いかくすりこと情えば、無くもいう心をはしたくないと思う。大事に派町民が思わずするで公民館の誕生を期待しようなる立派なやまない。

第七回青年議会　町を思う青年の情熱ほとばしる

去る二月八日午前九時から、五城目町連合青年会（会長宮城正一郎）主催による第七回青年議会が、役場第一会議室を会場に開催された。

二十九名の青年議員（内女子二人）は、六ヵ月前からこの議会のためテーマを設定し、青年達の心情だけでなく、広く地域町民の問題意識を調査し、これに対する町側の施策に検討を加えながら肉付けをして、本当に自らの問題として議会にのぞんだ。

その内容は、自然環境の保護に対してほとばしる情熱、教育問題と町の将来に対する夢、し尿処理問題、農業の未来像、そして物価問題と切実な現実に対する厳しさ、まことに多彩で青年らしい論陣の展開であった。紙面の都合で、全日程を掲載できないのは残念であるが、一般質問を中心にそのアウトラインおを知らせしたい。

一般質問

渡部義和（富津内青年会）

◆森山の採石問題と森林総合利用開発事業について

町当局は、自然保護運動に賛同し、助成するとした言葉とは裏腹に「森山の総合開発事業」の決定をみているが、自然保護に対する町当局の熱意が不足である。

法律で保護するすう勢

町長…行政を推進する場合は、原則として法律を守り、そのワク内でしか処理できないのが実情であります。

採石の問題につきまして私達も日頃苦慮しているところです解決の方法としては、話し合いとか、金銭で保障する以外ないと思いますが、町側の要望に応じてくれた岡本、小池部落以外はすでに契約済である事と業者が投下した資本の保障となると膨大な財源が必要となってくるので、すぐ解決できるめどはたっておりません。

ただ、中央の方でもこのような実情を検討し、法律で保護できるような、すう勢になってきています。

町民いこいの場として

森林総合利用計画を自然破壊と結びつけているようですが、これは自然を破壊しない程度の遊歩道を作るとか、キャンプ場やベンチを設置したりするもので、町民がいこいの場として森山を利用し易いようにするものであります。

自然の放置は滅亡につながる

また森山といっても、広大な範囲がありますし、この度の事業は、町有林地帯を中心におこなうものであります。自然保護という言葉のニュアンスに、若干ズレがあると思います。

それは野山を放置しておく事が自然保護には当らないと思うし、自然に人間が手を加えながら保護していくのが自然を滅亡から守る手段であることをご承知おき願いたいと思います。

質…**本町のし尿処理は今も原始的な投棄方法に頼っており、広域処理場も一向その進展がみられない他町村のように単独で建設する考えはないのか。**

総論賛成各論反対

―設置場所に苦慮―

町長…し尿やごみは原則的に個人的なものであるという認識を踏えながら、町民の協力をお願いしていますが、し尿処理は最終的に、八郎潟周辺に幹線を施く流域下水道による計画になっております。それまでの間、湖東部、もしくは南秋田郡で広域的な処理を検討しようじやないかという話し合いを、町村会でその都度繰り返してきています。総論は賛成、各論反対、いわゆる場所の問題になりますと、どこの町村でも引き受け手がないのが実情です。

単独建設は不許可

単独の建設は国や県で許可してくれません。隣りの井川村からムーノンという方式の、養豚し尿処理方法を利用したらという案もあり、その製造元を視察しようと計画もしていましたがこの薬品は、厚生省から許可がないこと等から取り止めとなっていますし、不確定なものを町の事業として取り上げていくには、非常に疑問のあるところであります。

今後更に検討を重ねながら広域し尿処理場の早期実現を期したいと思います。

小熊　新一（大川青年会）

◆農業浮上政策について

農業をめぐり社会情勢は非常に厳しいものがある。減反に端を発した減収、小農切り捨て、農業青年にとってその将来は必らずしも明るいとはいえない状態である。町ではこのような中にあって耕地の造成、規模拡大等に対する助成や、一集落一農場の設定等で労働力の集結化をはかり、余剰労力を吸収する男子就労型企業誘致をはかる考えはないか。

不動の計画と制度利用望む

町長…耕地造成、規模拡大、一集落一農場等については町でも応援はいたしますが、国でいろいろな制度を設けこれに対応できるものがありますので、事務的な事は町の産業課の方へおいでくだされよく相談してみてほしい。

後継者育成につきましては利子補給や近代化資金等で町の能力に応じた配慮をしております昨年は花卉栽培に対して百五十万円の助成をしておりますが、自分の一生の目標を早く樹て、その計画を持参してもらえれば相談に応じ、補助についても十分配慮していきたいと思っています。

荒川達雄（五城目青年会）

◆五高の移転に伴う諸問題について

五高の新築移転に伴う跡地利用の計画と運動公園の一部として活用する考えはないか。

跡地は財産処分の公算大きい

町長…跡地利用の結論から申しあげますと、全く白紙状態であります。何らかの形で長く保存したいというのが、町民の心情であることは理解できるし、受けとめたいと思いますが、現在要求されている坪数が三万六千坪であり、これに土盛など考慮すると、莫大な財源を必要とする事は明白であります。本町の財源確保には町有林など当てることになると思いますが、その額に満たない実情であります。従って跡地は特別な事情のない限り財産処分の対象となる公算が大きいと思っています。

伊藤俊悦（富津内青年会）

◆出稼ぎと工場誘致について

出稼ぎ就労者が年々増加の一途をたどっているが、経済の流動性からして労働市場も非常に不安定なものになり、賃金の不払いが非常に多くなっておる。一方町内の若年労働力は、労働条件のよい町外企業に流出し、長期計画における人口三万人を確保するにはおぼつかない状態である。

先に工場用地を確保したと聞いてはいるが、工場の誘致した話は全くない。男子就労型企業の誘致を早急に図るべきだと思うが、町当局の考えはどうか

技術グループの誕生期待

町長…出稼ぎ中のトラブルに対しては、互助会を通して解決をはかりたいので、具体的な内容でもって産業課に相談してほしいと思います。

企業誘致については、男子就労型市場の開発に鋭意努力しております。K電機が只今三十名の指導員を養成するため今中央で訓練中であります。春からは二百五〇名の男子型企業として操業する予定であります。

わが町は、昔から技術者の町として全県下に知名度があり、現在でも林業その他の技術者達は、県内くまなく歩き、非常に好評を受けております。

このようなグループに対しては、マイクロバス等その他に関する援助をしていきたいと思っています。今後も農林業は勿論商工業面においてもたくさんの技術者の誕生してくれる事が、この町の発展に結びつくものと確信しております。

自動車税（県税）は納税貯蓄組合へ

現在五城目町における普通自動車以上の課税台数は二、二五〇台で、年毎に大きな増加を示しており、未納額の多くなっていることも見逃がせません。

税金は納期内に納めてこそ価値があるものです。そこで今納税貯蓄組合が中心となって「組合が取りまとめて納税するやり方」を広く推しすすめています。この制度を利用すると手数がかからず期限の失することなく、納めることが出来ます。その上県からの補助金（納税額の百分の一に一人当り五十円が加算された額）もありますので組合事業がより効率的に健全な運営が出来ることになります。

法律の改正によって四十九年度から自動車税（県税）は五月に一年分を一回で納めなければならなくなりました。今からその準備に心がけて下さい。また組合に加入してない方はお早目に加入して下さい。便利で確実な方法としてお奨めします。

休日診療等のおしらせ

町広報の一月十五日号でも簡単におしらせしました、休日診療等について本町医師会の好意ある協力により、次のような診療態勢にしますので、よろしくご理解の上、受診されますようお願いします。

⊙ **日曜日の診療態勢**

前八時半～後五時半までの診療

実施医師

第一・三・五日曜～笹尾医院

第二・四日曜～庄司医院

⊙ **祝日の診療態勢**

前八時半～正午まで各医院

⊙ **急救診療態勢**

休日、夜間、時間外等の急患の診療については、当日の不在医師（一月十五日号広報に在宅医師としていた分）名を消防署に報告されているので、まず消防署（電一一九番―急救へ）へ電話してからにしてくださるようお願いします。

なお二月一日から医療費の改訂（実質一七、五％）の値上げがあり、とくに初診、深夜、休日加算が大巾に増加されましたので、もちろん急患以外は平日の受診をおすすめいたします。

年の国の民

国民年金受給額の改正前と改正後の比較について

昭和48年12月までと昭和49年1月以降を月額と年額表にしました。
年金を理解していただくための一番大切な表です、よくごらん下さい。

国民年金がこんなに良くなりました
受けられる年金等の額

種類		昭和48年12月まで	49年1月から	49年1月以降年額	実施
拠出年金（保険料を納める年金）	老令年金 25年納付	月 8,000円	月 20,000円	年 240,000円	49年1月から～
	10年納付	月 5,000円	月 12,500円	年 150,000円	
	5年納付	月 2,500円	月 8,000円	年 96,000円	
	附加年金	夫婦25年納付の例 夫定額分 8,000円 妻定額分 8,000円 夫所得比例分4,500円 夫婦で 20,000円	夫婦25年納付の場合 夫定額分 20,000円 妻 〃 20,000円 夫婦附加年金10,000円 夫婦で 50,000円	夫婦25年納付の年額 夫定額分 240,000円 妻 〃 240,000円 夫婦附加分 120,000円 夫婦で 600,000円	
	障害年金	月1級最低 11,000円 月2級 〃 8,800円	月 25,000円 月 20,000円	年 300,000円 年 240,000円	
	遺族が受けられる年金 母子年金	月 8,400円 子が2人以上のとき第2子から1人 400円	月 20,000円 子が2人以上のとき第2子から800円 第3子から400円	年 240,000円 子が2人以上のときは第2子が9,600円 第3子が4,800円	
	準母子年金				
	遺児年金	月 8,400円 子が2人以上のとき第2子から1人 400円	月 20,000円 子が2人以上のとき第2子が月800円 第3子月400円	年 240,000円 子が2人以上のとき第2子が9,600円 第3子が4,800円	
	カ婦年金	老令年金の半額	老令年金の半額	〃	
	死亡一時金	10,000円～52,000円	17,000円～52,000円		
福祉年金	老令福祉年金	月 3,300円	月 5,000円	年 60,000円	48年1月から10月分加算額
	障害福祉年金	月 5,000円	月 7,500円	年 90,000円	
	母子福祉年金	月 4,300円 子が2人以上のとき第2子から 1人400円	月 6,500円 子が2人以上のとき第2子が800円 第3子から400円	年 78,000円 子が2人以上のとき第2子が9,600円 第3子が4,800円	
	準母子福祉年金				
	本人所得制限	年 38万円	年 43万円		48年5月から
	扶養義務者所得制限 6人世帯	年 250万円	年 600万円		
	公的年金受給制限 戦争公務の年金	中尉まで全額支給	大尉まで全額支給		48年10月から
	一般の年金	年 6万円	年 10万円		
	老令特別給付金		月 4,000円	年 48,000円	49年1月から

豪雪による被害調査にご協力をお願いします

五城目町の100年 58

戦争の終わった日

小野一二

米穀購入通帳はあるけれども決められた米の配給はない。衣料切符の点数はあっても、店には開いていても、売るべきものはなにもなかった。

当時、店でたっぷりあった商品は、クズ皮でつくった修理用の下駄のハナオだけであった。広い店に、ただこれだけぶらさげてある商店さえあった。五束分一束で十銭ほどである。当時というのは、昭和二十年（一九四五）春から夏にかけて、軍国日本も息がたえようとしていたころである。

煙草は朝早く煙草屋の前に行列をつくって買ったが、十分もしないうちに売りきれてしまった。そまつな紙袋に入ったキンシをすうと、草をもやしたにおいがながれた。イタドリの葉が大部分だったからである。

物が不足というより、物がなかった。もっと不足なのは、男手であった。兵隊と軍需工場に根こそぎ動員になってたことは、前に書いた通りである。

八方手づまりになって、戦争はおわった。その前夜の八時ごろ警戒警報の長く尾を引いたサイレンが、町に鳴りわたり、間もなく胸をかき乱すような短く断続する空襲警報が鳴った。町はまっ暗になったが、そのはるか上の空には細かな銀のつぶをまいたような星がひかっていた。夏の夜空にサイレンの音がすいこまれて鳴りおわったとたんに、遠い爆発音が家々の窓をふるわせた。人びとは外にとび出した。

南の空に火柱があがり、連続して爆発音がとどき、B29の爆音が頭上でまわってどこかえ去っていくようであった。人びとは「秋田がやられている」と妙におし殺した声でいいあった。ものすごい煙があがり、火柱が立ち、照明弾が青白く昼のようにひかり、その明るさは立ちつくす町の人びとの表情をうきあがらせた。その中、土崎の製油所が攻撃されている、というわさが入ってきた。

こうした情報は、意外に早いものである。そういわれると、市街がもえているようにはみえなかった。火の手はせまい一か所からだけで、初めから動かないようであった。

空襲は一時間余りでおわったがそれを遠くからふるえながらみていた人びとは、次の日の八月十五日に重大放送があるということを知っていた。昼の放送のために、それぞれの隣組ではラジオを用意して集まる家を決めていた。

十五日もよく晴れて暑かった。石油がもえているまっ黒な煙が、高空で長く流れていた。ラジオはひどい雑音で、その底の方からきこえてくる天皇の声は、全く不明瞭であった。それが終戦を告げたものだったと気づいた人は、半分もいなかった。

おしらせ

保健衛生
2月の業務予定案内

保健衛生課二月の業務予定は左で記の通りすので、あたたかいご理解と積極的なご参加をお待ちしております。

・十九日　午後一時　乳児検診　五城目保健所
・二十日　午前九時半　乳児健康相談　五城目町公民館
・二十一日　午後一時　母親学級　五城目町公民館
・二十二日　午後一時半　第五回国保運営協議会　役場第一会議室
・二十七日　午後一時半　国保保健補導員打合せ会　役場第一会議室
・二十八日　午前九時　第五回献血車巡回により採血　本町内

訂正＝二月一日号でお知らせしたし尿くみ取り料金改正額は一八〇リットル四五〇円と訂正しておわびいたします。

善意銀行預託のお知らせ

このほど本町の善意銀行へ次のような預託がありましたのでお知らせします。

一、ぞうきん　七十四枚
五城目婦人会岩野支部
（代表　伊藤ハル）
一、金　六、〇〇〇円
田　町　佐々木春雄
一、金　三、〇〇〇円
五城目町商工会青年部
（代表　坂谷陽作）
これは同青年部の方々（延八十名）が町のひとり暮しの老人、ねたきり老人家庭へ雪おろしに対する親せき（秋田市）からの謝礼金を町の社会福祉事業へ預託されたものです。
一、金　三〇、〇〇〇円
米沢町　畠山　隆
（亡父伊七殿の香典返し）

町の社会福祉事業へとの事です。どうもありがとうございました。
善意銀行五城目支店

本年度分　社協特別会費
納付者のお知らせ

昭和四十八年度本町社会福祉協議会特別会費の納付者は次の通りです。（敬称略）

◆一口加入の方
（一口一、〇〇〇円）
伊藤準一郎、畑沢市郎、工藤武一
大石博三、渡部昌、猿田光、佐藤貞
佐川直蔵、佐藤忠四、畠山フクエ
藤原利市、藤原フミ、工藤トキ
二方シワ、米田アイ、猿田ハルエ
石井歌、小玉ミネ、松橋千代枝
小玉ハルエ、田口ヒサ、伊藤キミ
山田佐市、小玉鶴夫、八木下照全
小林節三、舘岡一郎、小玉徳太郎
遊佐武、石井由太郎、石川三五郎
小玉長三郎、伊藤多右工門
工藤祐喜、石井良司（黒土）
畑沢一視、浅野慶一郎、北嶋宇一郎
金田喜三郎、牧口武彦、石井孫一
千田金之助、一関勝巳、小玉甚一
阿部三郎、佐藤敏英、泉谷春治
佐藤祐治、千葉六郎、武田富太郎
佐々木市太郎、北嶋倉治

◆二口加入の方
宮田清三郎、荒川豊治、分銅良一
加藤幸次郎、小林俊太郎、伊藤博
畠山勘五郎、佐々木善蔵、斎藤明
佐々木吉三郎、佐々木千代吉
斎藤三四郎、石川茂右工門
石川誠一郎、伊藤与四郎、畠山豊
石井俊一、石井良治、石井勝雄、
畑沢多郎右工門、沢田石亀雄
嶋崎喜之助、加藤甚一、松橋長悦
菊地庄七、畠山元太郎、坂谷陽作
小林涼四郎、宮田盛之助、若松正
柳原金太郎、石井金之助
渡辺時治、田口耕市郎、大村仙福
笹尾長、川崎正之、加賀谷正作
長谷川定作、加藤千雄、鍋谷芳郎
今村方介、小森義一、川村義久
松浦修作、柴野三雄、渡部純之助
北嶋石五郎、加藤正松、阿部金一
安東晃子、山口倉造、工藤太郎
嶋崎善治郎、小玉久治郎
田中与四郎、松橋正之助

◆三口加入の方
菊地耕二、笹尾長、畑沢実
安東誠、伊藤卓治、小鹿順一
長谷川専治

◆四口加入の方
佐藤邦彦、渡辺綱彦
菊地ユキ、渡辺国子
菊地鶴松、末広せんいＫＫ

◆五口加入の方
加賀谷力司

以上

どうもありがとうございました。
今後共よろしくお願い申し上げます。
五城目町社会福祉協議会

3月　ごみ収集日

町名	3月 1回	2回	3回	4回	5回
希望ケ丘	4	8	13	17	23
田町	4	8	13	17	23
広ケ野	4	8	13	17	23
今町	4	8	13	17	23
御蔵町	4	8	13	17	23
小池町	4	8	13	17	23
川原町	4	8	13	17	23
新町	5	9	15	19	25
一番町	5	9	15	19	25
古川町	5	9	15	19	25
紀久栄町	5	9	15	19	25
中川原	5	9	15	19	25
館町	5	9	15	19	25
岩城町	5	9	15	19	25
築地町	2	7	10	17	20 27
畑町	2	7	10	17	20 27
新畑町	2	7	10	17	20 27
矢場崎	2	7	10	17	20 27
仲町	1	6	12	16	22 30
長町	1	6	12	16	22 30
米沢町	1	6	12	16	22 30
雀館	1	6	12	16	22 30
昭辰町	1	6	12	16	22 30
富津内	14	29			
内川	14	29			
馬場目	14	29			
大川	13	28			
面潟	13	28			
馬川	13	28			

①川等へゴミを捨てないでください。
②残飯類の水切りは必らず実行してください。

1 廃棄物は袋、標箋のないものは収集されませんので必らずつけるようご協力下さい。
2 廃棄物を直接搬入する際は必らず焼却場へ前もって連絡してください。（電3958）
3 廃棄物一箇の大きさはリンゴ箱程度に定めておりますから守ってください。
4 廃棄物収集所には収集当日午前8時までに。
5 積雪の為予定通り巡回出来ない場合もありますので御了承願います。除雪等に協力を乞う

ヤング登場
私のスポーツ

川原町　川村信啓

僕は自分自身でスポーツマンであると自負している。小さい時身体を鍛える為に柔道をやった。あまり長続きしなかったけど、小学校低学年の頃である。そして高学年のときには野球に熱中した。チームのキャプテンとして活躍した。これが今までの最高の経歴である。

中学に入って二年からバスケットボールを始めた。以来高校大学と十二年間バスケットボールから離れることはできなかった。そしてこれからも離れることはできないだろう。中学時代の監督のシゴキはすごかった。僕が監督に殴られた最高記録保持者だと変な自慢をしている。全県選抜で五一中に初の栄冠はうれしかった。しかし、そのあとすぐ悪夢が忍びよって来る。圧倒的優位が予想された我チームが県予選で羽城中に一ゴール差で敗れたのだ。それ以来僕のバスケットボール人生に優勝の二字は関係のないことばになってしまった。ところが、今年の中学校が大活躍をしてすばらしい成績を納め僕の溜飲を下げてくれたのだ。全県優勝どころか東北大会も優勝、全国大会へ出場したのだ。惜しくも二回戦で敗れはしたが、この活躍に、僕は大満足している。

これからは、楽しみながら、また側面からでも後輩へ協力していきたいと思っている。

続いて、おはよう野球への参加である。小学校以来十数年ぶりの野球である。しかも朝早くからの野球だから最初は眠かった。しかし楽しい。朝日と共に汗を流すのは最高の気分である一年目はほとんどベンチであった。ときたま代打に出たりしたけど、さっぱり。ところがシーズン終了と同時に、どういうわけかチームから、敢闘賞をもらった。これでヤル気が十分、自分でびっくりするほど、今シーズンはよく打った。結果は野球協会から最優秀選手賞をノバスケットボールとは正反対のバラ色のスタートとなった。来シーズンが待ち遠しいこの頃である

こういったスポーツをやっているおかげで、毎日が楽しいしいろんな人達とも知り合いになれたし、友達にもなれた。これから身体の続くかぎり、スポーツをやって行きたいと願っている。